

# 子どもたちはドキドキわくわく

外国での学校生活、生徒たちは何を感じているのだろう。

(『関西帰国生親の会かけはし会報』から抜粋)

協力：関西帰国生親の会かけはし

編集：日外協 広報部

## 日本人学校

### ベルギー・ブリュッセル〈小学生～中学生〉

日本の学校に比べて、男子と女子や先輩と後輩の関係が近く、みんな仲が良かったように思う。学校行事は1学期にはサマースクールや修学旅行があり、2学期には体育祭、マロニエ祭、マラソン大会、合唱祭、社会見学、3学期には現地校との交流学习がある。特に印象深いものが毎年10月に開かれる合唱祭。近所の大きな教会で行われ、家族や学校の関係者だけでなく現地の方も聞きに来てくれる。練習が大変だった分、当日無事にやり遂げた時の達成感は今でも忘れられない。

### スペイン・バルセロナ〈小学生〉

小学1年生から中学3年生まで約80人のとても小さな学校。僕のクラスの生徒数は11人！

しかし、人数が少ない分、先生がとてもいいねいに勉強を教えてくれる。登校初日、緊張しながらも教室の中へ入り、クラスのみんなが温かく迎えてくれた時、とても安心した。毎日登校していくうちに、徐々に慣れていった。休み時間は、小中学生の学年関係なくみんなサッカーなどで遊ぶ。僕にとってその時間が学校生活の中で1番楽しい時間だった。毎年2回、スペインの現地校との交流会がある。交流全体はほとんどスペイン語。週1回スペイン語の授業があった。

### サウジアラビア・リヤド〈中学生〉

中学部の入学生は私を入れて3人。少ないので驚いた。でも学年に関係なくみんな仲が良かったので、早く学校になじむことができた。ほとんどの授業は3人の生徒に対して1人の先生。分からない所を分かるまでていねいに教えてもらえるので、勉強面では人数は少ない方がいいのかなあとと思った。またアラビア語の授業が週に1度ある。休み時間は小学生と一緒に日中50度を超える時でも外で思いっきりサッカーをしたり、校舎内でも元気よく走り回ったりした。サウジのキンダーガーデンと交流会を行ったり、韓国の学校と交流を深めたりというような外国人との交流もあった。日本ではできないことをたくさんした。



### インドネシア・ジャカルタ〈小学生〉

校舎は幼稚園から中学校まで同じ敷地内にあり、とても広くきれい。インドネシア語の授業もあり、会話も習った。現地の方に覚えてのあいさつをすると、とても喜ばれた。行事もたくさん。特に文化祭や体育祭は小中合同でやるのでとても盛大だ。日本の学校からいきなり海外の学校に転入するのは緊張や不安が伴ったが、毎日がドキドキとわくわくの連続で、とても楽しかった。

### マレーシア・クアラルンプール〈小学生～中学生〉

小学校1年生から中学3年生まで在籍。その